



若南プライド

令和7年9月2日 文責：永関 修

2学期始業式 子ども達の笑顔が見られる幸せを感じて

暑さ厳しき折、長い夏休み、いかがお過ごしでしたか。保護者の皆様には、ご家族の貴重な時間や体験等、子ども達の大きな成長を支えていただいたことに感謝申し上げます。

さて、2学期の始業式に全校の子ども達に出会い、まず感じたのは、身体の成長と心の成長です。朝の会が終わり、いち早く体育館に向かう2年生の後ろを私がついていくと、後ろ姿からも子ども達の成長が伝わってきました。体育館に入るやいなや静かに所定の場所に体育座りをして静かに待つ姿をみて、「いやあ、これが夏休み明けの初日とは？」と心の中でつぶやいた瞬間でした。他の学年の児童も次から次へと静かに整列していく姿は、教育活動を行ってきた私たちにとって、何よりの喜びです。長期の休み明けにもかかわらず、子ども達の姿を見て、話の聞き方や態度が立派で感心しました。南小の校歌が大好きで、子ども達の歌う姿に



魅力を感じたのは私だけではなかったのではないのでしょうか。

今だからこそ、平和について考えてみたい

今年は、戦後80年を迎えました。私の父が生前、甲府空襲のあった80年前の7月7日の未明、通っていた小学校のグラウンドの裏山の空が真っ赤に染まっていた話をしてくれたことや、母方の祖父が太平洋戦争から帰ってきた際、腕に銃弾を浴びた話をきく中で、平和について考える機会が何度も訪れました。戦争を経験していない私たちが(教職という仕事を通じて)子ども達に伝えられることは、広島や長崎、沖縄に足を運んで、80年前に起きたことを知り、小学校の子ども達に分かる言葉で命の大切さを伝えたいと思っています。

戦後80年だからこそ、始業式の話の中で、短いながらも、子ども達が平和について考える時間にしたいと考えました。



～ 2学期が始まって、大切なことは、ハートちゃん（思いやり）とスマイルくん（笑顔）であることを伝えながら、80 年前に実は日本や世界が戦争をしていた話を伝えました。80 年前の 8 月 6 日に広島に原子爆弾がおとされ、多くの人が亡くなったことや、その 3 日後の 8 月 9 日に長崎に原爆がおとされたことを、大型絵本をつかって伝えました。長崎を訪れたとき、80 年前からある小学校に行き、この上空で爆弾がおとされたのかと想像し、悲しくなった話をしました。最後に今、自分にできることは何かと問いかけました。今、目の前にいるお友達にハートちゃんの心（思いやり）とスマイルくんの笑顔で接することが大切であることを伝えました。時々、学校生活の中でけんかをしてしまうことがあるけれど、自分がわかったことを素直に謝れる優しさを伝えてほしいと話を終わりました。 ～

子ども達の平和への思いとは。。。

短い時間でありながらも、子ども達の心には平和への願いが届いているものだと感じました。教室に戻った子ども達から、思いもよらぬ反応が返ってきました。2 年生の教室では、「ぼくは、零戦しってるよ。テレビで火垂るの墓をみたから。。。」「世界大戦はどうなったの。今は、ウクライナとロシアで戦争しているから終わってほしい。」休み時間には 5 年生に声を掛けられました。「親子読書で原爆の本を読みました。3 年生の時は原爆の事を調べたので。。。」「よく調べたね。」と答えました。また、校長室を訪ねてきた児童もいました。「原爆の本を見せてほしい。今日は、沖縄の本から読みたい。」爆風で建物が吹き飛ばされた様子や、黒い雨（放射能の雨）がふって、身体に大きな影響が及んだことを子どもながらに吸収していました。次の週は、長崎の本を読みたいと校長室を後にしました。子どもの感性に感動しました。

PTA 奉仕作業 早朝よりありがとうございました(^^)

8 月 30 日（土）の早朝より、保体部が主催する PTA 奉仕作業にご協力くださり、ありがとうございました。校庭、農園、花壇、自然観察園等の草取りや、校庭の側溝の土上げに、皆で力を合わせて行くと、短時間でも、こんなにきれいになるなんて驚きです。子ども達が学習に使う場所や休み時間に思



い切り遊ぶ場所が、きれいになってうれしいです。取れた草がコンテナにこんもり↓



花壇もこの通りきれいに↓



